

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4693900021
法人名	有限会社 あかつき居宅介護支援センター
事業所名	グループホーム あかつき
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾4374番地1 (電話) 0996-59-8805
自己評価作成日	令和3年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・さつま町紫尾の鶴宮中学校跡地に立地し、自然豊かな環境で近くには温泉施設や物産館もある。地域の行事、事業所の行事にも保育園児やボランティア団体等を積極的に受け入れるように努めている。

・管理者は、常に話しやすい環境を整え、職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や気付きを積極的に取り入れ、就業環境の整備やサービスの資質向上に繋がっている。

・利用者様の習慣や趣味を個々に把握し、生きがいのある生活を送られるように4、知人・友人等の繋がり継続を大切に支援している。

・災害時、急変時の対応として、安心して生活できるようにAEDも設置して緊急時対策に備えております。また、施設運営について具体的な改善策等助言も随時取り入れるようにしております

・施設の廊下は奥行きがあり、入所様の歩行訓練が可能で自主訓練されている。施設理念に基づき、利用者様・ご家族とのコミュニケーションを大切に、安心、信頼できる生活支援、また、職員は家庭的な雰囲気と心を通わせ、スキンシップを図りながら笑顔で思いやりのある支援を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、コロナ禍の為地域行事への参加は自粛しているが、緊急自動通報装置への登録等、災害対策への協力や近隣住民からの野菜の差し入れ等の交流は継続している。

・職員は、利用者が自分のペースで自由に暮らせるよう、安全にも配慮して支援している。リビングのソファは車椅子の移動のため4つから1つに減らして安全を確保したり、広い廊下を活用しての歩行訓練や畳スペースでの昼寝やウッドデッキの椅子で日光浴等、施設の設備を活かして思い思いにくつろいで暮らせるように家具の配置等も工夫している。

・家族との面会も窓越し面会となる等、制限されている中、事業所からLINEを利用して動画を送送信したり、希望でリモート面会も実施し、利用者の近況を積極的に伝えて家族との関係が途切れないように努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	その人らしさを大切に、個々に応じた今までの生活を継続していただけるように支援しています。	理念を玄関・リビング・厨房に掲示し、職員は各自で確認しており、パンフレットにも掲載している。ケアについては随時振り返りを行い、理念に沿ったケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり地元住民との挨拶や、馴染みの店での買物等交流を継続されるように努めている。	例年地域行事に参加していたが、コロナ禍の為、地域行事は自粛している。ボランティア受け入れや住民からの野菜の差し入れ等の交流は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方の相談にはわかりやすく説明し納得いただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での施設の現状報告で意見や感想・提案等活かしてサービスの向上を図っている。	コロナ禍の為、書面開催となっており、2ヶ月毎に資料を送付している。委員からの意見は出されていないが、事業所のコロナ対策等の取り組みを周知する機会となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設運営状況を書類にて報告して助言等、頂くようにしている。	町の担当者とは、出向いて報告や相談を行い助言を得るなど、連携を図っている。町実施の研修会は今年度は開催され、参加して情報収集にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会にて拘束ゼロを原則としている。3ヶ月に1回以上の施設内研修をおこなっている。	指針があり、委員会と研修会を3ヶ月毎に実施し、職員の理解を深めている。不適切な言葉は気付いた時に代表や管理者から注意を促している。玄関の施錠はせず、外に出て行く利用者には一緒に敷地内を散歩している。住民からの地域の協力も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、言葉使い等、日々の業務において、職員同士見逃すことのないようにお互いに意識するように指導を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、対象利用者はいないが勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、十分に説明をおこない、完全にご理解・納得されるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入所者様のご意見、要望等は日常的に伺い、家族のご意見等は面会時やご意見箱を利用されるようにしている。相談窓口等掲示している。	利用者には日常の会話の中で要望等を聞いており、普段の様子から推測することもある。家族には、状況報告の電話や来訪時に要望等を聞いており、県外在住の家族から面会の相談があるが、事業所の感染対策を説明し了解してもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見は積極的に取り入れ、改善向上を目指している。	朝の申し送りや業務の中で職員の意見を聞いており、ケアの方法についての提案が多く出され、ケアの統一に反映させている。不在の職員には、ホワイトボードを活用して情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	少人数での業務分担であり、楽しく、明るい雰囲気ですぐにやりがいのある職場環境を常に意識している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に、実践にて技術向上を図り、施設内勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員との情報交換にて改善等、積極的に取り入れサービス向上をはかっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変化からの不安定な精神状態を理解して、不安の除去を図り、従来の生活環境をしっかり把握して、本人の理想とする生活を探る。そして、信頼を抱いていただくように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始に関しての、不安要望を伺い、支援の方向性を一緒に話し合っ、納得される支援を提供することで信頼を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人の心身状態を把握して、重点支援を見極め、家族と話し合いをおこない、理解を得て納得されての支援をおこなう。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気や常を意識して冗談を交えながら、笑顔で言いたいことが遠慮なく言える環境づくりをおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族の一員として、本人・家族の方と話し合いをおこない、温もりが感じられる支援に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の延長ができるように、行きつけの店等との関係継続、知人・友人との関係維持に配慮している。	外部との交流は自粛しており、家族との窓越しやリモート面会・電話・手紙での交流を支援している。事業所からの電話やLINE動画で近況を報告し、家族との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の趣味を把握して、余暇の過ごし方の提案をおこない、利用者間交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の近況がわかるように、御家族や近隣の方々との会話にて相談等に応じるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人の意向や要望を意識して接しており、不満に思われていることはないか、何を求められているのかなど、適切な支援の提供に努めている。	日常の会話で本人の思いを把握するように努めており、散歩や買い物等の外出や折り紙等の趣味についての希望が多い。困難な場合は、家族の情報や日常の様子を観察して推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人・友人等より、本人様の生活歴・生活リズム・趣味等を伺い、対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム・生活パターンの変化にて心身状態を把握し、その人らしさを失うことのないように支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人の生活歴、趣味等を本人・家族、知人等と話合って介護計画を作成し、状態に応じて計画の見直しをおこなっている。	本人及び家族の希望を基に職員で検討し、介護計画を作成している。2ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に及び状況変化時に、現状に合った介護計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を介護記録に記載し個別の情報・状態を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設対応出来ていないことは、他の施設との情報交換、連携にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の慰問、ボランティア団体の受け入れ、地域の行事等に参加し、気分転換を図られるように努める。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・ご家族の希望を伺い、定期受診の支援にて心身の状態をこまめに報告して医師との連携を図っている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、受診継続を支援している。受診は家族対応を基本にしているが、職員も対応している。緊急時は、かかりつけ医に連絡して指示を受けて対応すると共に家族にも連絡している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員がお互い情報を伝達し合い、少しの異常でも早めの受診をするように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の日常の状態を伝え、適切な対応ができるよう早期退院の支援に心がけている。定期受診時にて、心身状態を医療機関とお互いに確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の重度化については、定期的にご家族・主治医と今後の予測を含めての話し合いをおこなない、支援の方向性を決めている	契約時に、重度化の場合の事業所対応について説明している。重度化等の場合、かかりつけ医と家族が話し合って方針を決定しており、管理者がその場に立ち会って家族の意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、今後、看取りについて家族の希望がある場合は、検討する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	備え付けの緊急時マニュアルにて定期的に勉強会をおこなっており、知識を身につけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員全員が避難方法を把握し、近隣住民が協力されている。	年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、消防署の立ち合いが1回ある。緊急通報装置に隣家の消防団員が登録されており、地域の協力体制が築かれている。災害用の備蓄は、水・米・インスタントラーメン等の食料を確保している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に努め、声かけの仕方、接し方等、注意を払っている。居室に入る時は、できるだけ本人の了解を得て入室している。	研修を実施し、さん付けでの呼びかけや入室時は声掛けする、オムツ交換時は戸を閉める等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。申し送り時は内容が分からないように配慮し、プライバシーの確保をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より要望等、思っていることを気兼ねなく言える雰囲気づくりに努めて希望の実現を図るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重して、できる限りその人の1日の流れに沿える過ごし方ができるように援助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	今まで利用されていた馴染みの衣料品店等を継続利用されるように、本人の思いを尊重している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けの手伝い等できる範囲での参加を促して、食事に関する意識を持っていただくようにしている。	旬の野菜等を調理し、一人ひとりに合った食事形態で提供している。片付けを利用者と一緒に行っている。誕生会のケーキや季節の行事食、土用のウナギ、年越しそば等、食事を楽しめるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕・10時・15時のお茶の摂取状態、食事摂取状態を記録し、食事形態もキザミ食、一口カット等の対応にて完食されるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、就寝前の入れ歯の洗浄管理の声かけ介助等、口腔内の清潔保持をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意がなく排泄の訴えがない方等、定時の声かけをおこない排泄を促している。介護記録や排泄チェック表を活用している。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、尿意がない場合も時間を見て声掛け誘導し、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。夜間は身体状況等に応じて、トイレ誘導をしたり、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼らないように、水分摂取や歩行等、運動の声かけをおこない、お腹のマッサージを施したりして対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴を楽しまれており、要望など状況に応じて随時の入浴を提供するよう個々の対応に努めている。	週2回の入浴を午前中に実施している。体調等により、清拭の実施や入浴日の変更を行うこともあり、必要に応じて2人介助で対応し、気持ち良く入浴してもらえるようにしている。脱衣室の暖房もあり、汚染時にはシャワー浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方の提案をおこない、夜間の睡眠確保について適正な生活習慣の理解をいただくように声かけ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診時に、服薬状態・心身の状態を主治医に詳細に報告し服薬調整にて状態改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が楽しみにされている趣味の継続を支援している。家事手伝い等、個々の能力を活かして役割分担にて生きがいをもたれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に、施設内の散歩等されるように促し、気分転換を図られるよう声かけを行っている。できれば自宅帰省や地域行事への参加を計画している。	天気の良い日は広い敷地の散歩をして、気分転換を図っている。コロナの為外出支援は自粛しており、家族の受診同行時に、墓参りをしたり弁当を食べる利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は個々に対応し、少額の金銭管理は本人に任せている。買物同行時には、本人が支払いをされるように見守りをおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持されており、利用者から電話をされたり、家族等からかけられたりして自由に近況を話されている。希望により、はがきの代筆等もおこなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように、玄関や広間に花を飾ったり、空調の管理については、温度管理を徹底して、過ごし易い空間づくりに努めている。	日当たりの良いリビングは季節の飾り付けがされており、24時間換気の設備や窓を時々開けて換気に努め、空気清浄機や加湿器・エアコンで過ごしやすい室内環境に調節している。畳スペースや外のウッドデッキに繋がって広く、利用者が好みの場所でくつろげるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間のソファでゆっくりと過ごされたり、テレビを観られたり、入所者間の交流を促している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は入所時、本人・家族の希望を伺い設定しているが、随時、ベッドの移動や家族の写真等を貼られたりされて、精神的に落ち着かれた空間で生活されるように配慮している。	居室には、ベッドやタンス・クローゼット・サイドテーブル・エアコンが備えてあり、本人は、使い慣れたテレビや収納ボックス・タンス・寝具を持ち込んだり、時計や写真・ぬいぐるみ等を身近に置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立に向けて、安全に安心して移動ができるようにバリアフリーとなっており、できるだけ行動しやすい住環境となっており、自立を促している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない